

直江津 時めぐり

NAOETSU Model course

所要時間 **4時間**

※所要時間は移動時間と見学時間を含まれた目安です。

親鸞聖人ゆかりの旅モデルコース

K	親鸞聖人上陸の地 居多ヶ浜	5分	↓	5分
F	居多神社	5分	↓	5分
G	五智国分寺		↓	1分
L	竹之内草庵	5分	↓	15分
M	国府別院	20分	↓	
N	浄興寺	30分	↓	
O	系しんの里記念館			

※P.10 参照
※P.18 参照

親鸞 年譜

承安3年 (1173)	親鸞誕生。誕生場所・幼名などは不明。
養和元年 (1181)	親鸞9歳。春に天台宗青蓮院慈円(「愚管抄」著者)の元で出家。比叡山延暦寺に登り、堂僧として修行をする。以後、29歳までの20年間をここで学ぶ。
承元元年 (1207)	専修念仏禁止により、親鸞(85歳)は越後国府へ配流。
建保2年 (1214)	妻子を伴って常陸(茨城県)へ移住。
元仁元年 (1224)	この年より主著『教行信証』を著して浄土真宗を開く。
弘長2年 (1262)	舎弟・尋有の善法院で親鸞(90歳)死去。

「教行信証」のなかに海という言葉が数多く現れたのは、越後国府で日本海を見つめた日々が深く影響しているといわれている。

親鸞聖人ゆかりの旅

時空をこえて、歴史を旅する…。

親鸞聖人 上陸の地



居多ヶ浜

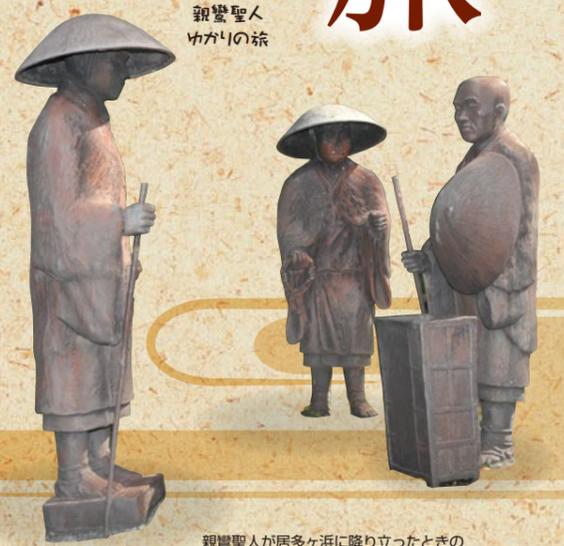
配流の身となった親鸞聖人が上陸した地。公園として整備され、展望台から日本海に沈む夕日を眺めれば、聖人の昔をしのぶことができます。また近くの居多神社には越後七不思議の一つ「片葉の葦」や記念堂があります。

☎025-526-5111 (観光交流推進課)
☒直江津駅前からバス7分・「居多ヶ浜」下車徒歩3分

越後・上越には、浄土真宗の祖・親鸞聖人と恵信尼(えしんに)に関わる史跡や伝承が数多く残されています。越後七不思議のひとつ「片葉の葦(かたはのあし)」をはじめとした、親鸞聖人が使ったと言われる養命清水(ようめいしみず)、鏡ヶ池の水面に姿を写して刻んだ像など、800年の時を経てなお訪れる者に感動を与えます。ゆっくりと時間をかけて、親鸞聖人と恵信尼の旧跡を訪ねてください。



親鸞聖人ゆかりの旅



親鸞聖人が居多ヶ浜に降り立ったときの様子を再現した像(国府別院)

系しんの里記念館 (板倉区)

親鸞聖人の妻・恵信尼は晩年を板倉で暮らし、この地で亡くなったといわれています。恵信尼ゆかりの歴史的資料や関連書物等が展示されているほか、恵信尼廟所には恵信尼の墓といわれる恵信尼石塔(市指定文化財)があります。

☎10:00~16:00
☎火曜日(祝日の場合は翌日)、12月29日~1月3日
☎無料 ☎0255-81-4541
☒上越自動車道越後高田から車で25分
新井(ターミナル)からバス9分・「鮎川新田」下車徒歩3分



浄興寺 (高田寺町)

親鸞聖人が常陸国(茨城県)で「教行信証」を著した寺。下総・信濃へと移り川中島合戦で消失し、謙信公の招きによって春日山城へ。その後、福島城下を経て高田城築城とともに現在地へ移ります。本堂(重要文化財)は平成16年に大修理を終え、往時の姿がよみがえりました。

☎025-524-5970 ☒高田駅から徒歩7分



国府別院

親鸞聖人が竹之内草庵から移り、妻恵信尼と住んだといわれる旧跡。後に浄土真宗本願寺派の別院となりました。本堂(市指定文化財)の天井は美しい極彩色です。

☎025-543-2742
☒直江津駅前からバス9分・「国府別院前」下車



竹之内草庵

親鸞聖人が上陸した後の最初の住まい。伝親鸞聖人坐像(市指定文化財)が安置されています。

☎025-543-3069 (五智国分寺)
☒直江津駅前からバス6分・「五智国分寺裏門」下車



居多神社

親鸞聖人が参拝したと伝えられる神社で、親鸞聖人にまつわる越後七不思議の第一番「片葉の葦」が群生しています。

☎025-543-4354
☒直江津駅前からバス7分・「五智国分寺表門」下車徒歩1分

華やかな 府中文化が栄えた 越後国府



五智国分寺

謙信公がこの地に再古式にのっとった鎌美しい三重塔は未完配所竹之内草庵があります。山門・経蔵・境内地は市指定文化財。

☎025-543-3069
☒直江津駅前からバス6分・「五智国分寺裏門」下車

時めぐり コラム

親鸞聖人と恵信尼

親鸞聖人は、承元元年(1207)、専修念仏の弾圧をうけ、京都から越後国府(上越市)に流罪となりました。時に親鸞35歳。親鸞はこの地で42歳までの人生において最も重要な時期を過ごしました。

親鸞聖人の著書に「海」という言葉が多いのは、日本海を見つめた日々が影響しているためだといわれています。

親鸞聖人の妻、恵信尼は晩年を板倉町(現上越市板倉区)で暮らし、この地で亡くなりました。その生涯は流罪となった親鸞聖人を支え、東国に移住してからは各地を転々とし、晩年は板倉に戻り、飢餓のなか子どもや孫たちまでも面倒をみるといった苦難の多いものでした。しかし恵信尼は、そうした苦難にも負けず、たくましく、ときにはユーモアをもって、当時としては稀な87歳をこえる長寿を全うしました。恵信が残した「恵信尼文書」は、恵信や親鸞の生活をあざやかに描き出し、また鎌倉時代の女性の筆による史料として貴重なものとなっています。



「恵信尼像」部分(複製)(系しんの里記念館)



恵信尼の墓といわれる恵信尼石塔(市指定文化財)(系しんの里記念館)



五智歴史の里会館

親鸞聖人上陸の地の名所・旧跡を巡る絶好のポイントにある施設で大駐車場に隣接し、観光情報や土産品、無料休憩室を完備。

☎9:00~18:00 ☎12月29日~1月3日
☎025-543-3222
☒直江津駅前からバス7分・「五智国分寺表門」下車徒歩2分